

科目	学年・小学科	単位数
世界史	3年・全学科	2
教科書	山川出版「世界の歴史」	
副教材	浜島書店「プロムナード世界史」	

1. 学習目標

- ①原始・古代から現代に至るまでの世界の歴史について総合的に理解する。
 ②諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察する。
 ③歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 学習方法

- 授業：世界の歴史を、日本との関わりに触れて、さまざまな側面から考察する。
 ○予習：事前に教科書に目を通すなどして授業内容の確認をしてもらうことが望ましい。
 ○復習：授業内容の定着をはかるため、単元終了時に確認テストを実施する。
 ○課題：単元終了時や長期休業など、適宜課題を課す。

3. 評価の観点と趣旨

①	関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追究しているか。
②	思考・判断・表現	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。
③	資料活用の技能	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。
④	知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。
⑤		

科目	学年・小学科	単位数
世界史 A	3年・全学科	2

学期	単元	学習内容	重点をおく評価の観点					単元の評価規準	評価方法
			①	②	③	④	⑤		
前期中間	1章	世界の諸文明	東アジア世界	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ●アジア諸地域の歴史の変遷について、興味をもって理解しようとしている。 ●古代ギリシアと都市国家ローマの発展の過程および政体の変遷を多面的に比較・考察し、それぞれの特徴を理解できる。 ●西欧社会の基盤をなしたローマ＝カトリック教会について理解できる。 	授業態度 発問評価 提出課題 ノート点検 定期考査
			東南アジア世界	○		○	○		
			南アジア世界	○		○	○		
			西アジア世界	○		○	○		
			ヨーロッパ世界	○		○	○		
前期末	2章	世界の一体化の始まり	16世紀の世界の一体化の始まり	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ●大航海時代に続く西欧諸国の世界各地への進出・支配の進展という形で、真の意味での世界の一体化が始まる背景を理解できる。 ●中国とヨーロッパの交流の影響について、お互いの地域ごとに整理できる。 ●宗教改革がその後のヨーロッパ社会に与えた影響について理解できる。 	
			明・清代の東アジア	○		○	○		
			大航海とアメリカ征服	○	○		○		
			新しい時代の始まりとルネサンス	○	○		○		
			宗教改革	○	○		○		
			絶対王政と議会王政	○	○		○		
	3章	近代の世界	啓蒙とアメリカ独立	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ●植民地解放戦争であるアメリカ独立戦争が、同時に近代革命・市民革命としての性格を備えていたことに注目することができる。 ●フランス革命を、貴族・ブルジョワ・都市民衆・農民などの諸階級による複数の運動がからまり合って展開する複合的な革命として理解できる。 	
			フランス革命	○	○		○		
			ナポレオンとその帝国	○	○		○		
			イギリス産業革命	○	○		○		
			アメリカ合衆国の発展とカナダ	○	○		○		
			東アジアの開港と変動	○	○		○		
			東アジア近代化の試み	○	○		○		
後期中間	1章	帝 始 現 国 主 代 義 義 代 と	帝国主義の国際対立	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ●植民地獲得競争を背景とする列強間の対立・抗争が、同盟関係の積み重ねを通じて陣営間対立に系列化されていくしくみを理解できる。 	
			日露戦争と韓国併合	○	○		○		
			辛亥革命	○	○		○		
	2章	二つの世界大戦	第一次世界大戦	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨーロッパ戦線の展開を、ドイツの対仏・対露の二正面作戦を軸に、的確に整理し、理解できる。 ●アメリカの大恐慌が世界恐慌へと拡大していくメカニズムを、資金の国際的流れの図版に注目して説明できる。 ●第二次世界大戦発生の原因に関心を持ち、直接の原因、根本的な原因など、様々な要素を挙げて主体的に考察できる。 ●日本はなぜ、強大な敵アメリカとの戦争に踏み切ったのか、石油資源の問題などを含め、多角的に検証している。 	
			ロシア革命	○	○		○		
			ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○	○		○		
			世界恐慌	○	○		○		
			ファシズムの台頭	○	○		○		
			第二次世界大戦前夜の世界	○	○		○		
			満州事変と日中戦争	○	○		○		
			第二次世界大戦 I	○		○	○		
	第二次世界大戦 II	○		○	○				
	3章	冷 平 戦 和 と	冷戦の開始	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ●冷戦体制の下でのドイツ・朝鮮・ベトナムにおける分断国家の出現について、そのメカニズムを考察し、理解できる。 ●グローバル化の進展に関して、その動きを進展させる動きと反発する動きがあることに注目し、多面的に考察できる。 	
冷戦の激化と核戦争の危機			○		○	○			
米・ソの動揺と多極化する世界			○		○	○			
冷戦の終結			○		○	○			
地球社会の今後と私たち			○	○		○			
後期末	4章	現 代 と 日 本 世 界	米・ソの動揺と多極化する世界	○		○	○		
			冷戦の終結	○		○	○		
			グローバル化とアメリカ	○	○		○		
			地球社会の今後と私たち	○	○		○		